

宮城県白石市教育委員会

【総人口】29,942人

【主担当部局】白石市教育委員会教育部学校管理課
(公立小学校担当)白石市教育委員会教育部こども未来課
(幼稚園・保育所・認定こども園担当)【自治体 関連URL】<https://www.city.shiroishi.miyagi.jp>

	幼稚園			保育園		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	0	1	0	5	3	0	1	0	10	0
園児・ 児童数	0	23	0	95	268	0	104	0	1,184	0

令和8年2月1日時点

事業実施地域・ 協力園校	【実施地域】 白石市
	【協力園校（数）】 幼：公立幼稚園1園、公立保育園5園 小：公立小学校9校

宮城県白石市教育委員会

事業実施の背景・目的

本市は令和4～6年度に取り組んできた「幼保小の架け橋プログラム」で得られた成果を基盤とし、その取組を不登校・いじめの未然防止という視点から再構成し、全国的に増加傾向にある小学校低学年の不登校・いじめの抑制を図ることを目的とする。

事業実施体制

本調査研究は、有識者、保育士・教員の代表、幼児教育アドバイザー、白石市教育支援センタースーパーバイザー、教育委員会関係者で構成される調査研究実行委員会が中心となって調査研究を進める。事務局は白石市教育委員会教育部内に置く。本市は令和4～6年度に文部科学省委託事業「幼保小の架け橋プログラム」を実施しており、その際に設置された架け橋プログラム運営会議の実績と人材を本事業にも引き継ぐ。これまでの取組の蓄積や、保育者・教員の共通理解がある点は、本市の強みといえる。

会議体 「調査研究実行委員会」	【会議委員人数】 13名	【開催数】 計2回
	【委員属性】 公立保育園長1名、公立保育園職員2名、公立小学校長1名、公立小学校職員2名、大学教員3名、学校管理課職員2名（教育専門監、幼児教育担当職員）こども未来課職員1名（幼児教育アドバイザー）、市教育支援センター（白石市子どもの心のケアハウス）所長兼スーパーバイザー1名	
・架け橋期の コーディネーター ・幼児教育 アドバイザー ・その他	【配置人数】 2名	
	【内訳】 幼児教育アドバイザー 1名、教育支援センター（白石市子どもの心のケアハウス）スーパーバイザー 1名	

宮城県白石市教育委員会

主な取り組み内容

実態調査の実施

保育士・教員計31名へのアンケートおよび13名へのヒアリングを実施し、不登校・いじめ未然防止には「安心感」が重要であることを再認識した。

カリキュラムの改善策の立案

既存の架け橋プログラムの有効性を確認。「ねらい」や「配慮事項」を、具体的かつ「安心感」を意識した文言にする改善策を立案した。

調査研究の理解の促進および次年度の協力依頼

立案したカリキュラム改善策を、架け橋プログラム運営会議へ提案した。園長・校長を対象とした研修会を開催し、本事業の理解促進と協力を依頼した。

事業を実施する過程で生じた課題とその対応策

アンケート調査結果分析の取扱い

課題：サンプル数が少ないなどの課題が見られた。
対応：有識者の助言を受けつつ、現場の感覚を反映したものであり、ヒアリング調査を踏まえ子供の姿を示す資料としてとらえた。

不登校・いじめについての共通認識

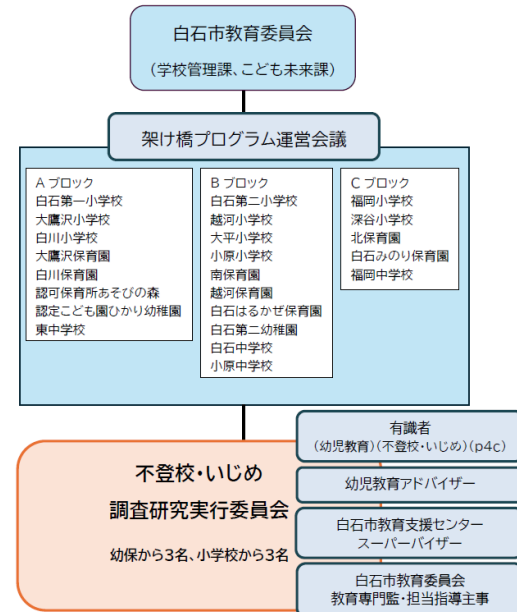
課題：保育士には幼児を不登校・いじめの視点で捉える機会が少ない。
対応：アンケート項目を具体的な子供の姿と関連付け、共通認識の形成を図った。

さらなるカリキュラムの改善に向けて

課題：カリキュラムの改善方針は示されたが、具体的な方策の提示が少ない。
対応：今後、文献調査や先行事例の研究を進め、実態に即した方策を検討する。

協議内容・プロセス

- 1 1月5日（水） 第1回調査研究実行委員会
 - 本事業の趣旨説明、本市「架け橋プログラム」の取組について、本市の不登校・いじめの傾向についての情報共有（説明）
 - 実態調査の観点、回答方法、調査項目の内容についての検討（有識者も含めた委員によるグループワーク）
- 1 1月～12月 実態調査（アンケート調査、ヒアリング調査）の実施
 - アンケート調査（11月27日～12月2日）
 - ヒアリング調査（アンケート調査実施後）
- 1 1月9日（金） 調査研究実行委員会ワーキンググループ（有識者以外の委員、事務局員）
 - 実態調査結果報告および分析
 - ※有識者による専門的な知見から、ワーキンググループでの結果分析への助言
 - ワーキンググループで分析した結果を送付し、それぞれの立場から、助言等回答
- 1 1月26日（月） 第2回調査研究実行委員会
 - 実態調査結果分析の確認
 - 令和8年度架け橋期のカリキュラム改善策について
- 3 2月（月） 架け橋プログラム運営会議
 - 架け橋期のカリキュラム改善策の提案
- 3 3月11日（水） 管理職研修会
 - 「幼児教育の学び強化事業」の取組の説明と協力の依頼



宮城県白石市教育委員会

事業の成果

(1)不登校・いじめに繋がると推測される子供の姿の認識の共有
アンケート・ヒアリング調査の結果をもとに架け橋期の子供の多様な実態を、有識者、保育士、教員が具体的に捉えることができた。その中で、本市の小学生の不登校の要因として、不安感が関係していることや、「感情が不安定」に該当する子供と「手が出る」に該当する子供の重複が多いことが聞き取れたことから、「安心感」が不登校・いじめの未然防止の上で重要であるということが再確認できた。また、子供のどのような状態や行動が不登校・いじめに繋がると推測されるかについて保育士と教員間で認識を共有した。

(2)既存の架け橋プログラムの効果確認と改善方針の立案

既存の「架け橋プログラム」で実践されている交流活動やp4cが幼保小の円滑な接続に有効であることを委員の多くが実感している。今後は、架け橋期のカリキュラムや、その補助資料「実践資料集」内の「ねらい」や「援助・配慮事項」を「安心感」を意識して取り組むことができるようポイントを明示したり、より具体的な文言で表現したりする方向で改善に取り組む方針とした。

(3)具体的な改善内容の提案

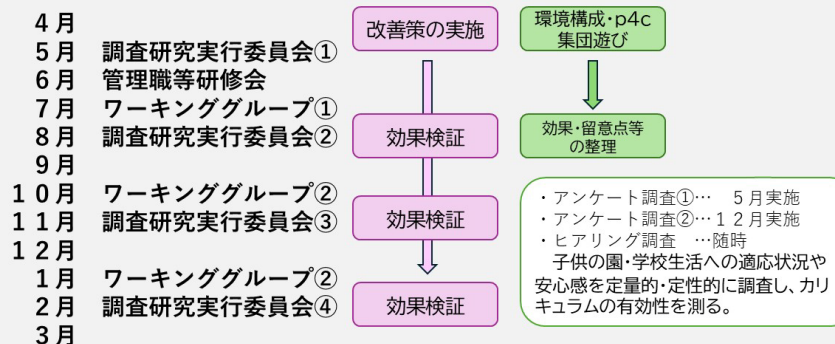
「安心感」を軸に、カリキュラムを改善するうえで具体的な活動案を架け橋プログラム運営会議に提案した。架け橋期の子供に自分の安心できる場所を撮影させ、保育士がその写真から環境構成を工夫する「写真投影法」や、p4cの「問い」を「安心感」と関わるものにする工夫、他者との協力を促す意図的な活動(集団遊びにおける子供への働きかけの明示や、周囲への助力を求める仕掛けなど)の工夫といった、具体的な内容を提案した。また、管理職研修会を開催し園や小学校の管理職の理解促進と協力依頼を行った。

架け橋期のカリキュラム補助資料「実践資料集」

人をつなぐ	幼児の姿と保育者のねがい	○幼児の姿 ●保育者の願い
5歳児冬頃の子どもの姿 ○何度も学校見学や校庭で遊ばせてもらったことで、小学校を身近に感じられるようになってきた。 ○学校が勉強するところだと認識しているが、まだ「授業」がどんなものなのかは分からない様子である。 ●不安なこと期待することなどを聞き取りながら、保育者が寄り添ったり、小学校と情報を共有したりすることで交流の際に不安を解消しながら就学への思いを膨らませていってほしい。		
活動名	小学校ってどんなところ③	
ねらい	◎小学校について知っている事を友達と話すことで、学校生活を楽しみにする。 ◎自分や友達が行く小学校を知り、入学への期待をもつ。	
◆環境構成	◆小学校の写真や絵本などを準備しておく。 ◆学校ごっこができるようなランドセルやベンチケースなどイメージを持てる保育の準備を行う。 ◆小学校に散歩で出かけ、校舎や校庭を見たり、遊ぶ機会を設けたりし、小学校を身近に感じられるようにする。 ◆小学校訪問を行う際には事前に連絡し、打ち合わせしておく。 ◎友達の見学先や一緒にいく友達を知り、安心できるようにする。 ◎授業参観や学校探検などで、どのような教室があるのか、どんなことをしているのかを見学させてもらい、小学校生活を楽しみに思えるようにする。 ◎小学校の写真や絵本を見せ、小学校に興味をもてるようにする。 ◎小学校のことをみんなで話をし合うことで、具体的なイメージをもち小学校生活を楽しみに思えるようにする。 ◎保育の中で学校ごっこなどを取り上げ、関心や期待がもてるようにする。 ◎幼児の見学先を知らせ、期待がもてるようにする。 ◎散歩で学校方面に行くなど、身近に感じる機会を作っていく。	
◇保育者の配慮・援助		

♥ これまでの取組を「安心感」の視点から見たときに、ポイントとなる部分をハイライトすることで、保育士・教員が意図をもって取り組めるようにする。

次年度に向けた展望



本市「架け橋プログラム」運営会議との緊密な連携